

## 5 病院事業

### (1) 事業数と職員数

平成20年度における病院数は、平成20年4月に登米市登米病院が無床診療所になったことから、前年度に比べ1病院減少し29病院となり、事業の数は前年度と同数の19事業となっている。

病院を経営主体別にみると、市営が1病院減少し17病院、町営が8病院、一部事務組合営が4病院となっており、経営規模別にみると、300床以上が前年度と同数の6病院、200床以上300床未満が前年度と同数の2病院、100床以上200床未満も前年度と同数の6病院、50床以上100床未満が前年度に比べ1病院減少し10病院、50床未満が前年度と同数の5病院となっている。このうち、300床以上の病院は、仙台市立病院、大崎市民病院、気仙沼市立病院、公立刈田総合病院、登米市立佐沼病院及びみやぎ県南中核病院で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

病院種別では、すべて一般病院に該当しており、このうち救急指定病院は、登米市登米病院の無床診療所により前年度に比べ1病院減少し27病院となっている。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は、登米市及び栗原市の病院事業が、平成20年4月から全部適用に移行したことから、前年度に比べ2事業増加し4事業（仙台市立病院、大崎市民病院外3分院、登米市佐沼病院外3病院及び栗原市中央病院外2病院）で、他は財務規定等のみの適用となっている。

職員数は4,938人で、前年度に比べ80人（1.6%）減少している。これは、登米市登米病院の無床診療所等によるものである。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

(単位:病院、床、%)

経営規模 \ 経営主体	市 営		町 営		一 組 営		計		構 成 比	
	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	
300床以上	4	1,742	0	0	2	608	6	2,350	20.7	49.2
200床以上300床未満	2	496	0	0	0	0	2	496	6.9	10.4
100床以上200床未満	3	489	2	261	1	170	6	920	20.7	19.3
50床以上100床未満	5	414	4	298	1	90	10	802	34.5	16.8
50床未満	3	129	2	76	0	0	5	205	17.2	4.3
計	17	3,270	8	635	4	868	29	4,773	100.0	100.0

(注) 病院数は、年度末現在の数である。

### (2) 施設の利用状況

病床数は4,773床で、前年度に比べ90床（1.9%）減少している。これは、登米市登米病院（一般病床53床、療養病床45床の計98床）が無床診療所になったことが主な要因である。

患者数は、年延入院患者が1,318千人で、前年度に比べ68千人（4.9%）減少し、年延外来患者は2,302千人で、前年度に比べ104千人（4.3%）減少している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は125人で、前年度に比べ1千人（0.8%）減少し、1病院当たりの1日平均外来患者数は319人で、前年度に比べ1人（0.3%）減少している。

病床利用率は75.6%で、前年度に比べ2.3ポイント低下している。このうち、一般病床利用率は76.0%で、前年度に比べ3.1ポイント低下している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度		16	17	18	19	20	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目	A				a	b	c	×100(%)
年 延 患 者 数 (千人)	入院	1,460	1,454	1,429	1,386	1,318	△68	△4.9
	外 来	2,709	2,620	2,547	2,406	2,302	△104	△4.3
一日平均患者数 (人/1病院)	入院	129	128	126	126	125	△1	△0.8
	外 来	354	339	328	320	319	△1	△0.3
病 床 利 用 率 (%)		(80.4)	(79.1)	(78.4)	(79.1)	(76.0)	(△3.1)	—
		78.9	77.9	77.0	77.9	75.6	△2.3	—
職 員 数	B	5,112	5,058	4,984	5,018	4,938	△80	△1.6
一床当たり職員数 B/A		1.00	1.00	0.97	1.03	1.03	0.00	—

(注)病床利用率欄の( )内は、一般病床分である。

### (3) 経営状況

#### ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は789億77百万円、経常費用は833億48百万円となっており、この結果、経常収支比率が94.8%となり、前年度に比べ1.7ポイント上昇している。

経常利益が生じた事業は19事業のうち4事業（病院数では29病院のうち6病院）で、前年に比べ2事業増加（1病院増加）しているが、その額は3億56百万円で、前年度に比べ2億55百万円（41.7%）減少している。

経常損失が生じた事業は15事業（23病院）で、前年度に比べ2事業（2病院減少）であり、その額は47億27百万円で、前年度に比べ17億93百万円（27.5%）減少している。

経常利益に特別利益を加えた総収益は796億58百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は837億96百万円となっており、この結果、総収支比率は95.1%で、前年度に比べ1.8ポイント上昇している。

経常収支に特別損益を加減した純損益をみると、41億38百万円の純損失が生じており、前年度に比べ16億21百万円（28.1%）減少している。

累積欠損金を有する事業は18事業（27病院）で、前年度と同じ事業数（1病院減少）であるが、その額は639億8百万円で、前年度に比べ41億38百万円（6.9%）増加している。

不良債務を有する事業は3事業で、前年度と同じ事業数であるが、その額は19億72百万円で、前年度に比べ29億46百万円（59.9%）と大幅に減少している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項目	年度	16	17	18	19 a	20 b	対前年度比較	
							b - a c	(c/a) ×100
総 収 益	A	81,746	81,498	81,697	80,297	79,658	△639	△0.8
経 常 収 益	B	80,867	80,369	79,092	79,687	78,977	△710	△0.9
医 業 収 益	C	72,852	72,606	71,396	71,881	70,064	△1,817	△2.5
うち料金収入		67,138	67,055	65,614	66,097	63,809	△2,288	△3.5
うち受託工事収益	D	0	0	0	0	0	0	—
特 別 利 益		879	1,129	2,606	610	681	71	11.6
総 費 用	E	87,319	88,506	87,544	86,056	83,796	△2,260	△2.6
経 常 費 用	F	86,908	87,562	87,042	85,596	83,348	△2,248	△2.6
医 業 費 用		82,521	83,028	82,683	81,452	79,429	△2,023	△2.5
うち職員給与費		38,536	38,112	38,350	37,768	37,378	△390	△1.0
支 払 利 息		2,392	2,364	2,302	2,151	1,971	△180	△8.4
特 別 損 失		411	944	502	460	448	△12	△2.6
経 常 損 益		△6,041	△7,192	△7,951	△5,910	△4,371	1,539	26.0
経 常 利 益		409	261	405	611	356	△255	△41.7
経 常 損 失	G	6,450	7,453	8,356	6,520	4,727	△1,793	△27.5
純 損 益		△5,574	△7,008	△5,847	△5,759	△4,138	1,621	28.1
純 利 益		347	682	1,275	504	503	△1	△0.2
純 損 失		5,921	7,689	7,122	6,263	4,641	△1,622	△25.9
累 積 欠 損 金	H	49,059	50,137	55,959	59,770	63,908	4,138	6.9
不 良 債 務	I	5,561	5,277	4,209	4,918	1,972	△2,946	△59.9
経 常 収 支 比 率 B/F		93.0	91.8	90.9	93.1	94.8	1.7	—
総 収 支 比 率 A/E		93.6	92.1	93.3	93.3	95.1	1.8	—
医業収益 に対する 割合	経常損失比率 G/(C-D)	8.9	10.3	11.7	9.1	6.7	△2.4	—
	累積欠損金比率 H/(C-D)	67.3	69.1	78.4	83.2	91.2	8.0	—
	不良債務比率 I/(C-D)	7.6	7.3	5.9	6.8	2.8	△4.0	—
総事業数(営業中)	J	31	20	20	19	19	0	0.0
経常損失を生じた事業数	K	25	17	17	17	15	△2	△11.8
累積欠損金を有する事業数	L	29	19	19	18	18	0	0.0
不良債務を有する事業数	M	7	5	4	3	3	0	0.0
総事業数 (営業中) に対する 割合	経常損失を生じた事業数 K/J	80.6	85.0	85.0	89.5	78.9	△10.6	—
	累積欠損金を有する事業数 L/J	93.5	95.0	95.0	94.7	94.7	0.0	—
	不良債務を有する事業数 M/J	22.6	25.0	20.0	15.8	15.8	0.0	—

(注) 不良債務＝流動負債－(流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は83億46百万円で、前年度に比べ8億13百万円（8.9%）減少している。このうち、建設改良費は31億43百万円で、前年度に比べ10億84百万円（52.6%）増加しており、企業債償還金は50億86百万円で、前年度に比べ19億43百万円（27.6%）減少している。なお、企業債償還金には、公的資金の補償金免除繰上償還額も含まれている。

資本的支出の財源は、外部資金が他会計出資金や企業債等の68億71百万円であり、内部資金（資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源）が損益勘定留保資金等の14億75百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は37.7%で、前年度に比べ15.2ポイント上昇しており、建設改良のための企業債償還金の割合は53.9%で、前年度に比べ2.7ポイント低下している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

（単位：百万円、%）

項目		年 度					対前年度比較	
		16	17	18	19 a	20 b	b - a c	(c/a) ×100
資本的支出	建設改良費	6,750	3,310	2,687	2,059	3,143	1,084	52.6
	企業債償還金	5,854	5,847	6,031	7,029	5,086	△1,943	△27.6
	うち建設改良費のためのもの	5,854	5,847	6,031	5,181	4,496	△685	△13.2
	その他の	594	100	615	71	117	46	64.8
	計	13,199	9,257	9,333	9,159	8,346	△813	△8.9
同 上 財 源	内部資金	2,463	2,015	1,811	1,333	1,475	142	10.7
	外部資金	10,736	7,242	7,522	7,826	6,871	△955	△12.2
	企業債	5,372	2,311	1,941	3,212	5,854	2,642	82.3
	うち建設改良費のためのもの	5,000	2,311	1,941	1,364	2,285	921	67.5
	外部資金のうち 他会計出資金	4,323	4,078	4,581	4,360	3,506	△854	△19.6
	他会計負担金	272	240	267	90	200	110	122.2
	他会計借入金	40	0	350	0	0	0	—
	他会計補助金	52	50	63	57	120	63	110.5
	国・県補助金	606	561	315	112	118	6	5.4
	繰越事業財源（△）	0	0	0	0	0	0	—
計	13,199	9,257	9,333	9,159	8,346	△813	△8.9	
財源不足額	0	0	0	0	0	0	—	
当年度同意等債で未借入 または未発行の額	0	0	0	0	0	0	—	
実質財源不足額	0	0	0	0	0	0	—	

（注）1 内部資金＝補てん財源合計額－前年度からの繰越工事資金＋固定資産売却代金

2 外部資金＝資本的支出額－（内部資金＋財源不足額）

ウ 料金収入の状況

料金収入（入院・外来収益）は638億9百万円で、前年度に比べ22億88百万円（3.5%）減少している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が32,573円で、前年度に比べ575円（1.8%）増加しており、外来収益が9,068円で34円（0.4%）増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは291,497円で6,882円（2.3%）減少しており、看護部門1人当たりでは51,994円で1,574円（2.9%）減少している。

第5表 料金収入の状況の推移

（単位：円、%）

年 度	項 目	16	17	18	19	20	対前年度比較	
					a	b	b - a c	(c/a) ×100
	料 金 収 入（百万円）	67,138	67,055	65,614	66,097	63,809	△2,288	△3.5
内	入院収益（百万円）	44,716	44,408	43,833	44,356	42,933	△1,423	△3.2
	訳 外来収益（百万円）	22,422	22,647	21,781	21,740	20,876	△864	△4.0
患者1人1日 当たりの診療 収 入	入 院	30,637	30,552	30,669	31,998	32,573	575	1.8
	外 来	8,276	8,645	8,552	9,034	9,068	34	0.4
職員1人1日 当り診療収入	医 師	339,872	321,466	290,652	298,379	291,497	△6,882	△2.3
	看 護 部 門	57,124	56,229	54,437	53,568	51,994	△1,574	△2.9

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金が119億46百万円、資本的収入に計上される繰入金が38億26百万円、合わせて157億72百万円で、前年度に比べ9億92百万円（6.7%）増加している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は15.0%で、前年度に比べ2.2ポイント上昇しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に対する割合は38.9%で、前年度に比べ18.6ポイント低下している。

病床1床当たりの他会計からの繰入額は330万5千円で、前年度に比べ26万6千円（8.8%）増加している。

第6表 他会計からの繰入金の状況の推移

(単位:百万円、%)

年 度		16	17	18	19	20	対前年度比較		
							b - a	(c/a)	
項 目					a	b	c	×100	
									他会計からの繰入金
うち	負担金	7,961	7,713	8,286	8,413	9,386	973	11.6	
	補助金	1,398	1,731	1,334	1,399	2,047	648	46.3	
	特別利益	517	912	2,383	462	513	51	11.0	
資本的収入 B	4,687	4,368	5,262	4,507	3,826	△681	△15.1		
うち	出資金	4,323	4,078	4,581	4,360	3,506	△854	△19.6	
	負担金	272	240	267	90	200	110	122.2	
	借入金	40	0	350	0	0	0	—	
	補助金	52	50	63	57	120	63	110.5	
	計 (A+B) C	14,563	14,724	17,265	14,780	15,772	992	6.7	
総 収 益 D	81,746	81,498	81,697	80,297	79,658	△639	△0.8		
資 本 的 収 入 E	10,736	7,243	8,234	7,838	9,845	2,007	25.6		
繰入率	総収益に対する繰入率 A/D	12.1	12.7	14.7	12.8	15.0	2.2	—	
	資本的収入に対する繰入率 B/E	43.7	60.3	63.9	57.5	38.9	△18.6	—	
一床当たり繰入金	収益的収入(千円)	1,926	2,045	2,344	2,112	2,503	391	18.5	
	資本的収入(千円)	914	862	1,028	927	802	△125	△13.5	
	計(千円)	2,840	2,907	3,372	3,039	3,305	266	8.8	

※ 一床当たり繰入金 =  $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

## オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が150万2,660円、看護師が45万7,286円、准看護師が51万7,511円、事務職員が51万4,617円、その他の職員が46万4,615円、全職員平均では56万6,672円で、前年度に比べ662円(0.1%)増加している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

年 度		16	17	18	19	20	対前年度比較	
							b - a	(c/a)
項 目					a	b	c	×100
看 護 師	465,768	461,153	460,463	456,534	457,286	752	0.2	
准 看 護 師	516,388	519,276	511,199	516,009	517,511	1,502	0.3	
事 務 職 員	499,281	504,509	509,698	518,375	514,617	△3,758	△0.7	
そ の 他 職 員	473,385	484,721	467,159	467,868	464,615	△3,253	△0.7	
全 職 員	563,649	566,422	566,529	566,010	566,672	662	0.1	

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額 = (基本給 + 手当) / 年間延職員数

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は732人で、前年度に比べ24人（3.2%）減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,290万4千円で、前年度に比べ268千円（2.0%）減少している。

病床100床当たりの職員数は、医師が13.2人、看護部門職員が71.8人、全職員では115.6人で、前年度に比べ2.2人（1.9%）増加している。

第8表 職員業務量の状況の推移

年 度	16	17	18	19	20	対前年度比較		
						b - a	(c/a)	
項 目				a	b	c	×100(%)	
職員1人当たり患者(人)	816	805	798	756	732	△24	△3.2	
職員1人当たり料金収入(千円)	13,133	13,257	13,165	13,172	12,904	△268	△2.0	
病床100 床当たり	医 師(人)	11.2	11.9	12.9	13.0	13.2	0.2	1.5
	看 護 部 門(人)	66.6	68.7	68.2	71.3	71.8	0.5	0.7
職 員 数	全 職 員(人)	105.9	109.9	109.5	113.4	115.6	2.2	1.9

キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は150億75百万円で、前年度に比べ14億46百万円（8.8%）減少している。これを料金収入に対する割合で見ると23.6%で、前年度に比べ1.4ポイント低下している。

医療材料費のうち、薬品費は84億91百万円で、前年度に比べ8億99百万円（9.6%）減少しており、患者1人当たりの薬品費は2,345円で、前年度に比べ131円（5.3%）減少している。

薬品使用効率は、投薬分が126.2%、注射分が100.8%、平均で110.6%となっており、前年度に比べ1.1ポイント低下している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

年 度	16	17	18	19	20	対前年度比較			
						b - a	(c/a)		
項 目				a	b	c	×100		
料 金 収 入	67,138	67,055	65,614	66,097	63,809	△2,288	△3.5		
医 療 材 料 費	17,797	17,364	16,627	16,521	15,075	△1,446	△8.8		
う ち	薬 品 費	10,396	10,125	9,592	9,390	8,491	△899	△9.6	
	そ の 他 材 料 費	7,401	7,239	7,035	7,130	6,584	△546	△7.7	
料金収入 に対する 割 合	医 療 材 料 費	26.5	25.9	25.3	25.0	23.6	△1.4	—	
	う ち	薬 品 費	15.5	15.1	14.6	14.2	13.3	△0.9	—
		そ の 他 材 料 費	11.0	10.8	10.7	10.8	10.3	△0.5	—
患者1人 当たり薬品費(円)	2,494	2,486	2,412	2,476	2,345	△131	△5.3		
薬品使用 効 率	投 薬	116.4	122.3	121.3	124.5	126.2	1.7	—	
	注 射	107.7	108.7	102.0	102.3	100.8	△1.5	—	
	平 均	111.6	114.7	110.3	111.7	110.6	△1.1	—	